

～総合的な学習の時間(チャレンジ学習) 研究実践～

思考ツールを使って学びを振り返ることを通して、 新たな課題を見だし、次の探究活動への意欲を高める学習

～6年「日本と外国の文化を味わおう」の実践を通して～

小原 広士

総合的な学習の時間(チャレンジ学習)研究実践 六年『日本と外国の文化を味わおう』の実践を通して

I はじめに

平成 29 年 3 月に公示された次期学習指導要領では、総合的な学習の時間において、探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成することを重視している。

本校のこれまでの実践からは、探究のプロセスの 4 つの過程の力が十分に身に付いていなかったり、学んだことをもとに積極的に社会活動へ参加しようとしている意識が低かったりするという課題があった。

そこで、総合的な学習の時間では、研究主題を「探究的な学習を充実させ、よりよく生きようとする力を高めるチャレンジ学習」とし、児童が、課題を解決するための探究のプロセスの中で、各教科等で育成する資質・能力を、相互に関連付けながら課題を解決し、実生活・実社会の中で活用できる力や、自分のよさや可能性に気づき、探究的な学習に主体的に取り組み、他者と協働して学びながら、実社会や実生活に進んで関わろうとする力を身に付けることを目指した。その具体化のために、1 年次は「思考ツールを使った学びを通して、新たな課題を見だし、次の探究活動への意欲を高める学習づくり」をテーマに、以下の 3 つを視点に研究を進めた。

- ① 6 つの資質・能力について、総合的な学習の時間における児童の姿を明らかにした上で、他教科等との関連について吟味すること
- ② 思考ツールを使って、探究的な学習に位置付けられた探究のプロセスの 4 つの過程の質を高める手立てについて工夫すること
- ③ 児童の探究を持続させる評価を工夫すること

本実践は、これら 3 つの視点を取り入れて行った第 6 学年「日本と外国の文化を味わおう」についてまとめたものである。

II 研究の目的と方法

本研究では、思考ツールを使った学びを通して、新たな課題を見だし、次の探究活動への意欲を高める学習づくりを充実させるための効果的な手立てを明らかにすることが目的である。そのために、以下の手立ての有効性と課題を明らかにする。

- 他教科等とのかかわりの明確化
- 「まとめ・表現」の場面の充実
- 探究的な学習を支える振り返り



KJ法を用いて交流する児童の姿

Ⅲ 結果と考察

1 他教科とのかかわりの明確化

(1) 結果

本実践では、視覚的カリキュラム表（資料1）を活用して、児童が各教科等で身に付けた6つの資質・能力を指導者が計画的に総合的な学習の時間で生かせるようにした。

本実践の一次では、4つの資質・能力の育成をねらいとし（資料2）、3時間目の授業では、「解決策を構想する力」を育むことを目標に位置付けた。視覚的カリキュラム表から、その力を重視した単元を確認すると、5月に実施した体育「ソフトバレーボール」があった。そこで、本時の最初に、児童にソフトバレーボールの授業を想起させた。すると、「ソフトバレーボールの授業では、自分たちが今できることと、できないことを交流した後に、技能を身に付けるために必要な学習内容や学習方法を考えたり、単元のゴールや学習計画を設定したりした。」「今回は、留学生との交流から分かったことや感じたことなどを交流した後に、単元のゴールを設定したり学習計画を立てたりするとよい。」といった声が挙がった。授業では、体育で身に付けた「解決策を構想する力」を活用しながら、一次を貫く課題を設定したり、学習計画を立てたりする児童の姿を見ることができた。

北海道教育大学附属旭川小学校6年		解決策	情報活用	論理的	
行事等	4月	5月	6月	7月	
入学式 1 2 入校式 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	引用して話そう 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	考えや意見をノートにまとめる 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	学校案内パンフレット 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	グループで話し合おう 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	
国語	読者のほたけと健康 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	春はあけぼの 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	川とノリ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	敬愛する心をもつ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	
総合	ぼくらのガーデニングⅡ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日本と外国の文化を味わおう 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31			
社会	縄文のむらから古墳のくにへ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	天皇中心の国づくり 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	危機のくらし 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	武士の世の中へ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	今に伝わる重町文化 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
	3人の武將と天下統一 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	江戸幕府と政治の安定 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31			

資料1 視覚的カリキュラム表

《各教科で身に付けた4つの資質・能力》	
【A 解決策を構想する力】	◇「ソフトバレーボール」(体育) ・技能を身に付けるために必要な学習内容や学習方法を考え、学習計画を立てた。
【B 情報を活用する力】	◇「天皇中心の国づくり」(社会) ・学習問題を解決するために教科書やインターネットなどから情報を集め、答えを導き出した。
【D 創造的に考える力】	◇「黒風・迷う」(国語) ・これまでの経験を組み合わせながら、自分のものの見方、感じ方、考え方を表現した。
【F 自らを振り返る力】	◇「学校案内パンフレットをつくらう」(国語) ・学習を振り返り、図表やグラフを用いることによって、伝えたいことを効果的に表現できることを実感したり、今後の課題を明確にしたりした。

資料2 一次で育てたい資質・能力

(2) 考察

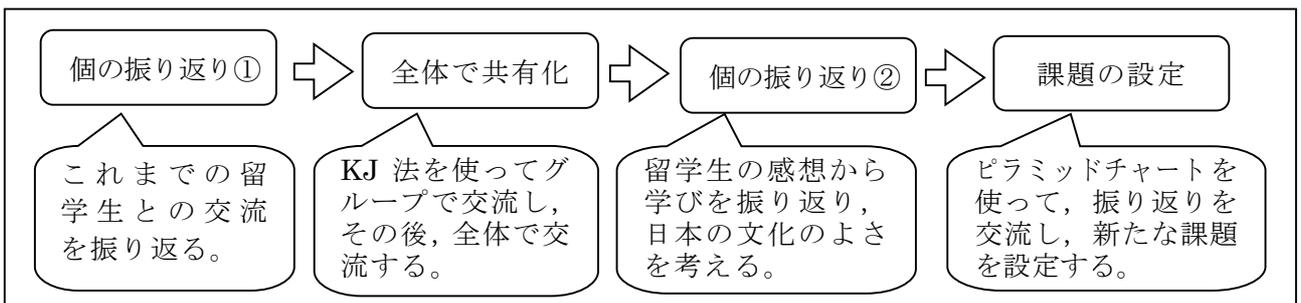
6つの資質・能力と総合的な学習の時間、各教科等の関連を視覚的に把握できる「視覚的カリキュラム表」を作成したことによって、指導者が各教科等で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間に生かしたり、学びが相互につながり合っていることを児童に実感させられたりすることが分かった。

今後は、新たな単元開発を進め、6つの資質・能力と新単元、各教科等の相互の関わりを明確にした視覚的カリキュラム表づくりを進めていきたい。

2 「まとめ・表現」の場面の充実

(1) 結果

探究的な学習の意欲を高めるためには、探究のプロセスの「まとめ・表現」の場面で「新たな課題の設定」をすることが重要である。本実践では、以下の流れで授業を進めた。



「新たな課題を設定」するには、新たな気づきが重要である。そこで「全体で共有化」の場面では、KJ法を使ってグループで交流し、友達の考えを視覚的に比較できるようにした。また、「個の振り返り②」の場面では、ゲストティーチャーの留学生の願いを聞く場面を設定し、考え方の「ずれ」を感じることができるようにした。

「全体で共有化」の場面では、児童が付箋に書いた一次の振り返りを画用紙に貼りながら、学んだことを伝え合った。自分と違うことを学んだり考えたりした友達の話を真剣に聞く姿が見られた。

「個の振り返り②」の場面では、留学生から「日本の文化のよさを知りたい。」という願いを聞くことを通して、「自分たちは、自信をもって日本の文化のよさを答えられない。」という新たな気づきを生むことができた。児童からは「日本の文化のよさを考えたことが無かった。」「自信をもって日本の文化のよさを言えない自分が恥ずかしい。」などの声が挙がった。

思考ツールを使った交流や留学生の願いから、新たな気づきが生まれた児童は、「課題設定」の場面で、「もう一度、日本の文化について調べ、日本のよさを考えよう。」という課題を設定することができた。



写真1 「全体で共有化」の場面



写真2 「個の振り返り②」の場面

(2) 考察

「まとめ・表現」の場面で、思考ツールを使った交流やゲストティーチャーから話を聞く場面を設定したことによって、児童は新たなことに気付いたり、気づきの質を高めたりすることができた。よって、本実践で行った2つの手立ては、「まとめ・表現」の場面で新たな課題を設定するために有効だったと考える。

しかし、本実践で行った「まとめ・表現」の場面で新たな課題を生み出すための学習の流れを全ての単元において行うことは難しい。なぜなら、総合的な学習の時間は、学習課題（国際理解、情報、環境、福祉、健康など）によって単元の構成が変化するからである。たとえば、学習課題によっては、一次の最初に単元を貫く課題を設定し、その課題解決に向かって学習活動が展開する流れで進めるものもあれば、一次の最初に単元を見通すことが難しく、次毎に課題を設定しながら学習活動を展開する流れのものもある。そこで今後は、全学年の単元を見直し、「まとめ・表現」の場面で、それぞれの学習課題に合った新たな課題を設定するため学習の流れを考えていく必要がある。

3 探究的な学習を支える振り返り

(1) 結果

児童が総合的な学習の時間で探究を持続させていくためには、児童自身が学びの意義や成果を感じることが必要である。そこで、以下の「振り返り活動の対象になる視点」を提示して振り返ることを継続した。

【振り返り活動の対象になる視点】

①達成、②事実や価値の発見、③学習過程の評価、④他者情報の活用、⑤自己変容、⑥探究への意欲

以下は、本実践の児童の振り返りである。

今日は、みんなが学んだことを交流することを通して、これまでの学習で私たちができるようになったことや、新たに分かったことなどを再確認することができました。留学生の話を聞いて、自分は日

①「達成」②「事実や価値の発見」

本の文化のよさを堂々と言えないことに気づき、恥ずかしくなりました。これからの学習を通して、日

⑤「自己変容」

本の文化のよさを考えていきたいです。そして、自信をもって日本の文化のよさを語るようになりました

⑥「探究への意欲」

いです。

児童の振り返りから、学びの意義や成果を実感していることや、探究の意欲が高まっていることが見て取れる。「振り返り活動の対象になる視点」を明確にすることは、児童が自らの学びを価値付け、探究的な学習への意欲を高める手立てとして有効だったと言える。

IV まとめ

本研究では、思考ツールを使った学びを通して、新たな課題を見だし、次の探究活動への意欲を高める学習づくりを充実させるための手立ての有効性を検証してきた。以下に成果と課題を挙げる。

1 成果

- 6つの資質・能力と総合的な学習の時間、各教科等の関連を視覚的に把握できる「視覚的カリキュラム表」を作成したことによって、各教科等で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間に生かすことができた。
- 「まとめ・表現」の場面で、思考ツールを取り入れた交流や、ゲストティーチャーの話聞く場面を設定したことによって、児童は新たな課題を生み出し探究的な学習の意欲を高めることができた。
- 「振り返り活動の対象になる視点」を明確にしたことによって、児童が、自分が学んだことの価値を自覚し、次の学びへと向かう意欲を高めることができた。

2 課題

- 新たな単元の開発を行い、6つの資質・能力と新単元、各教科等の相互の関わりを視覚的カリキュラム表に明確に整理する必要がある。
- 全学年の単元を見直し、「まとめ・表現」の場面で、それぞれの学習課題に合った新たな課題を設定するため学習の流れを検討する必要がある。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 平成20年8月
- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」～総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等向上に関する指導資料
文部科学省 東洋館出版社 平成22年11月
- 総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校】
文部科学省国立教育政策研究所 平23年11月
- 初等教育資料 No. 917 「特集Ⅰ 課題を解決する学習過程の工夫」
文部科学省 東洋館出版社 平成26年9月号
- 初等教育資料 No. 926 「特集Ⅱ 思考ツールの活用による探究・協同の授業の質的向上」
文部科学省 東洋館出版社 平成27年5月号
- 初等教育資料 No. 941 「特集Ⅱ 総合的な学習の時間と各教科等をつなぐカリキュラム・デザイン」
文部科学省 東洋館出版社 平成28年6月号
- カリキュラム・マネジメント入門
田村 学 編著 東洋館出版社 平成29年3月